



WEEKLY REPORT

No. 1745 (第32回) 2026年4月11日(土) 点鐘:15時00分 於:ほりでーゆ〜

例会:毎週水曜日 12:45~ 例会場:勇屋会館 事務所:安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F

R.I 会長メッセージ TEL:0263(73)2901 FAX:0263(72)3181 E-mail: azumirc@poppy.ocn.ne.jp

UNITE FOR GOOD

よいことのために
手を取りあおう

会長 赤羽 隆 幹事 三原 雅

R.I 会長 フランチェスコ・アレツツォ ガバナー 小林 磨史

中信第一グループガバナー補佐 西堀恒司

クラブ標語【 WE HAVE A DREAM 】

《環境月間》



創立 40 周年記念式典

あづみ野ロータリークラブ創立40周年

**奉仕の理想を
掲げて40年**

あづみ野ロータリークラブが「水と緑が光るまち」安曇野に創立してから40周年を迎えることが出来ました。当クラブは昭和61年2月2日に21名の会員が「奉仕の理想」を掲げて松本南ロータリークラブをスポンサークラブとして創立されました。以来、会員一同は自己の職業を通じて地域社会と世界平和に奉仕すること、第一義と考へ、国際交流・青少年の健全育成・地域福祉・文化の向上などに積極的に活動してまいりました。

本日、創立40周年記念式典を安曇野市の「ほりでーゆ」四季の郷にて関係者、来賓の皆様をお迎えして開催する運びとなりました。

当クラブは、多くの皆様のご支援をいただき、ようやく「不惑の年」を無事に乗り越えましたが、これからも自覚を持って「超我の奉仕」を実践すべく努めてまいります。

皆様方には今後、引き続きご協力を賜りまして、よろしくお願い申し上げます。

あづみ野ロータリークラブ
実行委員長 場々 洋介
会長 赤羽 隆

創立40周年記念事業とボランティア活動

●軽パン(軽貨物車輻)寄贈

安曇野市に災害用に役立つ「軽パン」1台を寄贈いたしました。

●三角島ふるさとの森プロジェクト&ロータリーの森プロジェクト

三角島(安曇野市穂高)の自然を大切に。清掃活動、植樹活動を15年以上続けています。

●古着de ワクチン

古着を回収し、その量に応じたポリオワクチンを発展途上国に寄付、この活動は3年となりました。

●安曇野市内中学生のスポーツ応援

バスケットボールの大会にロータリーカップの盾を寄贈しています。

●被災地支援

2024年1月1日に起きた「能登半島地震」、多額の被災地支援義援金をおくりました。

Rotary District 2600 国際ロータリー第2600地区 中信第1グループ
あづみ野ロータリークラブ
創立 1986年(昭和61年)2月2日 R.I.設立1986年(昭和61年)2月19日

事務局
〒399-8205長野県安曇野市豊科4312-6奥村ビル2F
TEL.0263-73-2901 FAX.0263-72-3181 E-mail:azumincrc@poppy.ocn.ne.jp

「超我の奉仕」を実践 あづみ野ロータリークラブ会員										(会員名簿はABC順)									
赤羽 隆	場々 洋介	藤 森 康 友	二 木 正 之	有 限 会 社 ア イ ン 機 器	井 口 連	飯 田 章 治	笠 原 明 仁	黒 澤 幸 恵	丸 山 慶 四 郎	丸 山 隆	三 原 雅	中 村 忠	小 穴 実	大 成 運 送 設 計 株 式 有 限 公 司	下 里 守	田 野 陽 子	横 山 泰 彦	あ づ み 野 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ 会 員	加 納 真 理

【2026年4月11日(土)市民タイムス掲載】



演題「能登半島地震の被災地支援」
講師 七尾市長

創立40周年記念式典

受付 14:30~15:00 点鐘 15:00

1. 点鐘	あづみ野ロータリークラブ 会長	藤森 康友	司会
2. 国歌 「君が代」	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
3. ロータリーソング「奉仕の理想」	あづみ野ロータリークラブ	ソングリーダー	瀬 昭 次
4. 開式の言葉	あづみ野ロータリークラブ創立40周年記念事業実行委員長	場々 洋介	
5. 物故会員黙祷	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
6. 特別出席者紹介	あづみ野ロータリークラブ 幹事	三 原 雅	
7. 会長挨拶	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
8. 記念事業記録贈呈	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
9. 謝辞	安曇野市長	中山 栄樹	
	七尾市長	茶谷 義隆	
	七尾みなとロータリークラブ 会長	高橋 志栄	
	国際ロータリー第2600地区 ガバナー	小林 磨史	
	松本南ロータリークラブ 会長	奥澤 信夫	
10. 来賓祝辞	あづみ野ロータリークラブ 会長エレクト	二木 正之	
11. 祝電披露	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
12. 閉式の言葉	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
13. 点鐘	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	
14. 謝事お知らせ	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆	

創立40周年記念講演

開演 15:50~16:50
司会 藤森 康友

「能登半島地震の復旧・復興について」

講師：七尾市長 茶谷 義隆 氏 (七尾みなと RC 会員)

創立40周年記念祝賀会

開演 17:00~19:00
司会 小穴 実

アトラクション

宮沢三姉妹による 三味線演奏

1. 歓迎の言葉	あづみ野ロータリークラブ 会長エレクト	二木 正之
2. 来賓挨拶	瀬戸北ロータリークラブ 会長	和佐田 強
3. 乾杯	RI 第2600地区 中信第一グループガバナー補佐	西堀 恒司
4. 中継	中信第一グループ次期ガバナー補佐	竹内 直彦
5. ロータリーソング「手に手つないで」合唱	ソングリーダー	瀬 昭 次
6. 御礼の言葉	あづみ野ロータリークラブ 副会長	下 里 守
7. 散会	あづみ野ロータリークラブ 会長	赤羽 隆

出席者名簿 (敬称略・順不同)

《特別出席者》

安曇野市長	中山 栄樹
七尾市長	茶谷 義隆
国際ロータリー第2600地区	ガバナー 小林 磨史
中信第一グループ	ガバナー補佐 西堀 恒司

《出席者》

松本南ロータリークラブ	会 長 奥澤 信夫
	議 事 出井 博文
松 本ロータリークラブ	会 長 小林 雅範
	幹 事 小池 和人
大 町ロータリークラブ	会 長 北村 友一
	幹 事 竹内 直彦
白 馬ロータリークラブ	会 長 岸 清美
松本東ロータリークラブ	会 長 村山 智計
	幹 事 吉池 裕一
松本城ロータリークラブ	会 長 征矢 芳友
	幹 事 大日方一成
瀬戸北ロータリークラブ	会 長 和佐田 強
	幹 事 中村 誠司
	パスト会長 伊藤 京子
七尾みなとロータリークラブ	会 長 高橋 志栄
	幹 事 半田 勝浩
	パスト会長・創立会員 越浦 昭二
	パスト会長・創立会員 佐味 賢義
	パスト会長 今井 富夫

会長挨拶 2026.04.11 40周年記念式典

あづみ野ロータリークラブ
赤羽隆会長



北アルプスにも春が訪れ、安曇野の桜も満開になってきました。

本日ここに、国際ロータリー第2600地区ガバナー小林磨史様をはじめとする地区役員の皆様、そして安曇野市長・中山栄樹様、日頃より多大なご支援を賜っております近隣のクラブの皆様、さらに遠方より駆けつけて下さった瀬戸北 RC、七尾みなと RC の皆様をお迎えし、「あづみ野ロータリークラブ創立40周年記念式典」を挙行できます事は、私共会員一同にとって、この上ない喜びでございます。本日は公私共にご多忙のところ、ご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

あづみ野ロータリークラブは1986年(昭和61年)2月に

松本南RCの島恒治特別代表、奥澤・花岡パストガバナーをはじめとするロータリアンの絶大なるご支援ご指導により21名の会員で創立されました。

初代木暮会長、中嶋幹事を先頭に安曇野市合併前から「あづみ野はひとつ」という願いを持って、地域社会と世界平和に対する奉仕を続けてまいりました。チャーターメンバー、そして諸先輩方の並々ならぬご尽力に改めて深く敬意を表し、心から感謝を捧げたいと思います。

安曇野は、北アルプスの雄大な山々と清らかな湧水に恵まれた「水と緑がひかるまち」です。この素晴らしい環境の中で、私たちは「超私の奉仕」の精神を、地域にどう還元できるかを常に模索してまいりました。

当クラブ創立直後に「青少年育成事業」として南安曇農業高校にインターアクトクラブを創設しました。有明高原寮にロータリー文庫として図書を長年寄贈、交通遺児を招いての郷土訪問遊覧飛行、青色灯搭載パトロールカー3台を小中学校に贈呈しました。また、ガールスカウトや日本語教室への支援も行い、現在は中学生バスケットボール大会を後援しています。

「国際奉仕」としてミャンマー・テザヤマ僧院学校に校舎を建設しました。

中国や台湾、モンゴル、マレーシア、ベトナム、ミャンマーな

どから米山留学学生を長年受け入れています。高校生を対象とした交換留学生のお世話をしたこともありました。

「環境保全活動」としてロータリーの森、近年は穂高の三角島の整備を続けています。また、小児麻痺の根絶を目指す「ポリオプラス」活動を長年継続し、最近「古着でワクチン」活動に協力しています。

さて、今回の40周年を記念いたしまして、当クラブでは次の事業を行う事にしました。今年度2600地区の「地域の防災・減災」というテーマに基づき「安曇野市に防災活動用に軽貨物自動車」ナンバーは40番です。

「七尾市に令和6年能登半島地震災害復旧・復興支援金」を贈呈します。なお、七尾市長・茶谷義隆様に後ほど記念公演を賜ります。茶谷様は七尾みなとRCの会員です。

ロータリー関係では「七尾みなとRCに義援金(令和6年1月送金済)」を贈呈します。

「ロータリー財団」「米山奨学会」に寄付金を贈呈します。これは地域の皆様への感謝の気持ちであるとともに、未来への我々の希望であり、エールでもあります。

ロータリーの普遍的価値である多様性・公平性・開放性が今こそ必要だと考えています。私たちも伝統を守りつつ、しなやかに対応していきたいと思えます。

今朝、国際月探査プロジェクト、アルテミス計画の宇宙船「オリオン」が太平洋に無事に着水しました。「オリオン」から見た地球には国境線は存在しませんでした。

当クラブは40周年という節目を無事に迎えることができました。今日から50周年に向けて、一人ひとりの職業倫理を高め、親睦を深め、より一層地域から信頼されるクラブを目指してまいります。

本日もご列席の皆様のご健勝とご多幸、そしてロータリーファミリーのさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

今後とも、あづみ野ロータリークラブに対し、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

【ガバナー月信5月号より】

<報告>あづみ野ロータリークラブ創立40周年記念式典

実行委員長

場々 洋介

本日は満開の桜咲く時期となり あづみ野ロータリークラブ創立40周年記念式典が堀金の「ほりでーゆ〜四季の郷」で開催されました。安曇野市長 中山栄樹様 ロータリー2600地区ガバナー小林磨史様 をお迎えして、また七尾市長 茶谷義隆様 親クラブの松本南ロータリークラブ、西堀恒司ガバナー補佐・中信第一グループ5クラブ 友好クラブの瀬戸北ロータリー 七尾みなとロータリーの皆さん 遠路よりの参加です。

当クラブは昭和61年2月2日に、スポンサークラブを松本南ロータリークラブとして木暮会長と総勢21名でスタートしました。記念事業としては安曇野市へ軽バン1台、七尾市と七尾みなとロータリークラブに義援金を贈呈し、ロータリー財団と米山記念奨学会に寄贈も行いました。茶谷義隆市長様の記念講演「能登半島地震の復旧・復興」のためにインターアクト生も参加してくれました。祝賀会では地元の宮沢三姉妹の津軽三味線のアトラクションもあり 最後は「手に手つないで」の大合唱で大いに親睦の輪が広がった一日でした。



安曇野市へ車寄贈



七尾市長記念講演:能登半島地震の復旧・復興について

七尾市長 茶谷義隆氏
(七尾みなとロータリー会員)



1. 危機管理の教訓:阪神淡路大震災から学んだこと

マニュアルの限界:大阪国税局勤務時代に阪神淡路大震災を経験。分厚い防災マニュアルを作成したが、「有事にはマニュアルを見る余裕などない」と痛感。常日頃からの意識と、現場での即応力が重要である。

初動の判断: 発災直後、職員に「暗いうちに被害確認に行くな(二次被害防止)」と指示。これは過去の震災経験に基づいた冷静な判断であった。

2. 発災直後の対応と自治体連携

プッシュ型支援と首長ネットワーク: 制度上の支援に加え、市長自身の LINE グループ等の人脈(岡山県総社市など)により、発災翌日には水などの物資が届く迅速な支援が実現した。

情報の透明性による安心感:「4月まで断水」という報道に対し、詳細な進捗管理と「通水見込み表」を毎日更新。不透明な未来への不安を払拭するコミュニケーションを重視した。

3. 「創造的復興」に向けた制度の改善

ルールの書き換え:和倉温泉の護岸整備: 国・県・市の権限を調整し、さらに海上に作業用道路を建設するなど、従来のルールに縛られない迅速な工法を採用。

公費解体の柔軟運用:基礎部分の撤去や、一部耐震化した建物の部分解体など、現場のニーズに合わせて国や県レベル変更を働きかけた。

避難所運営の最適化:精神的に疲弊する女性職員等の負担を軽減するため、地域に精通しリーダーシップのある職員を専任配置。市長直通の連絡体制を構築した。

4. 未来を創る「3つのC」と組織改革

2026年度の指針として、以下の3つを掲げ、市長直轄の「秘書広報課」を新設。Challenge(チャレンジ): どん底からの再出発。失敗を恐れず前向きに挑戦する。Chance(チャンス): 復興を通じて得られる情報や可能性、スキルの機会を逃さない。Create(創造): 頭で考えるだけでなく、具体的な形として作り出す。

5. 七尾の持続可能性:関係人口と伝統文化

「地域づくり協議会」の活用: 市長就任時から創設した「1億円(現在は3億円)のゆめ基金」を活用。地域の自主財源と組織力が、避難所運営や復興イベントの成功に直結した。

関係人口の拡大

祭りの力: 青柏祭(てか山)などの伝統行事を復興の旗印とし、外部からのボランティアや支援者を呼び込む。

デジタル住民: 「七尾ファンクラブ(LINE)」で3万人以上の登録を達成。住民票を持たない「ファン」を4万5千人(市人口と同規模)まで増やすことを目指す。

インフラの再定義: のと里山空港や七尾港を「半島の玄関口」と捉え、2拠点居住や観光のアクセス向上を図る。

市長からのメッセージ

「今やるべきことは箱物を作るのではなく、市民が前を向く力を後押しすること。ロータリーの『奉仕の精神』を胸に、地域の経済とコミュニティを再生させていく。」



2026年4月12日(日)市民タイムス掲載